

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の英語の未来へボタンをつなぐ

令和5年10月発行
西部教育事務所

今年度は、清水中学校が「高知の魅力発信グローバル人材育成事業」の指定を受け、「グローバルな視野を持ち、英語で自分の意見を発信することができる人材の育成」を目指して清水小学校、清水高等学校と連携しながら研究を進めています。



西部管内の
講座関係HP

教材研究会 令和5年5月23日(火) 第2学年 Unit2 Food Travels around the World
協議の視点 単元で育成を目指す資質・能力「話すこと [発表] イ」を育成するための単元構想となっているか



提案及び授業者：寺田圭美教諭

【清水中学校の「話すこと（発表）」における課題】

- 授業で何度も触れた表現を使って話すことについては概ねできているが、既習の表現を異なる場面や状況の中で活用して話すことに課題がある。
- 令和5年度全国学力・学習状況調査の「話すこと」の大問2において、相手意識をもってまとまった量で適切に話すことに課題がある。

【内容のまとめ】話すこと（発表）イ

- 【単元の目標】高知を訪れる予定の外国人に高知観光を楽しんでもらうため、相手が興味を持ちそうな情報や表現を使い、高知の魅力を伝えることができる。
- 【単元のゴール活動】外国人の友達に、高知観光を楽しんでもらうため、高知の魅力を伝えるビデオレターを作ろう。

清水中学校英語科より ～単元構想における5つの工夫～

①生徒の意欲を引き出すオーセンティックな目的や場面、状況の設定

第1時に授業者に届いたオーストラリア人の友達からのビデオレターを見て、その友達が高知に来ることを知り、高知観光を楽しんでもらうため、高知の魅力を伝えるビデオレターを作るという単元ゴール活動を行うことを知る。

②言語活動の設定

単元を通して伝える相手とテーマを変えながら、単元ゴール活動の相手である授業者の友達と同じ外国人であるALTに高知の魅力を伝える言語活動を毎時間行っていく。そして、授業者が中間指導を繰り返し行うことで、単元ゴール活動に向けてコミュニケーションにおける見方・考え方の成長を促し、言語面、内容面での高まりを目指す。

③教科書の活用

教科書の登場人物が友達からおすすめの場所を紹介されている場面を聞いたり読んだりして、聞き手に魅力を伝える際に効果的な表現を見つけ、言語活動を行う際に活用する。また、教科書の登場人物がクラスで行ったスピーチを読んでその構成に気付き、自分の発表の構成を再構築するために活用する。

④ICTの活用

単元の途中でALTに対してスピーチを行い、Chromebookを使って動画を撮影する。そして、授業者は、撮った動画を全体で共有しながら、聞き手に魅力を伝えるにはどのような内容を、どのような表現を用いて伝えれば良いかを繰り返し指導する。

⑤高校生との連携

授業者は、単元ゴール活動の直前には、同じテーマで高校生が行った発表動画を生徒に見せ、生徒の発表をさらに高める。

教科書をなぞる指導から「活用」する指導への転換
単元をつくるためには、右の図の「①学習指導要領の解釈、②子供の実態、③教科書の有効活用、④見方・考え方の成長の視点」から単元を描くことが大切です。教科書をなぞるのではなく、「活用」して単元づくりを行いましょう。

参考：「新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり」p.18

学習指導要領の解釈

教科書の有効活用

単元づくりのプロセス

見方・考え方の成長

子供の実態

～研究協議より～

英語科のグループからは、単元を通して、伝える相手の情報や、目的や場面、状況を変えながら言語活動を行うことが提案されました。

他教科のグループからは、「高知観光」ではなく、「清水観光」とした方が生徒が本当に伝えたい意欲につながるのではないかなどの意見が出されました。



参加者の学び・気付き

- ・単元の始めに、いかに生徒に学ぶ必然性をもたせるかが大切であることを学びました。始めに、学ぶ必然性をしっかり共有することで生徒の関心・意欲を引き出し、授業に取り組む態度や授業の深まりも変わってくると思いました。
- ・単元ゴールに向けて質を上げながら言語活動を繰り返していくことが大切だと思いました。
- ・単元構成と子ども自身のフィードバック、発問をどのように関連付けていくかという視点を得られました。
- ・自身の授業で中だるみをするがありました。単元ゴールでただ今までの表現をつなげるだけでは面白くない、毎時間相手を変えたり、目的・場面・状況を変えるという工夫があるという意見が参考になりました。

教材研究会からの学びと清水中学校英語科の思い

教材研での意見をもとに生徒の実態を振り返ると、清水中学校の生徒が清水の良さあまり気がついていないことが分かった。そこで、英語科の授業で、清水の魅力について伝える活動を通して、清水という地域を見直し、再発見する機会にしてほしい。また、単元を通して2名のALTを活用して生徒が魅力を伝える相手や、目的や場面、状況を変えながら言語活動を繰り返すことで生徒の見方・考え方の成長を促す。

【単元の目標】清水を訪れる予定の外国人に清水観光を楽しんでもらうため、相手が興味をもちそうな情報や表現を使い、清水の魅力伝えることができる。

【単元のゴール活動】外国人の友達に、清水観光を楽しんでもらうため、清水の魅力伝えるビデオレターを作ろう。

【単元を貫く言語活動】2名のALTを相手に、場面、状況を変えながら高知や清水の魅力伝える。

〈本時の展開〉

①単元のゴール活動を再確認

第1時に観た外国人の友達からのビデオレターを改めて視聴し、要望を確認

②本時のめあてを考え、共有する

生徒からめあて「清水の魅力伝えるビデオメッセージを作ろう！」を引き出し、共有

③外国人の友達の要望を受けて、魅力を伝えるスピーチの準備をする

スピーチの内容をマッピングを活用して整理する

④ペアでスピーチ発表

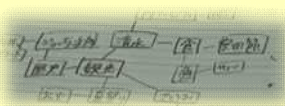
⑤全体で共有

生徒の発言を板書し、良かったポイントを共有し、内容面の指導

⑥外国人の友達に向けて、Chromebookで動画を撮影し、提出

⑦全体で共有

マッピングを見ながらスピーチをし、撮影しています。



⑧振り返り

生徒の撮影した動画をテレビに映しながら全体で共有し、内容面の指導をしています。

入之内 昌徳 教科調査官より



◎コミュニケーションを行う相手に対する意識・理解を深める

ビデオレターを送る外国人の友達の文化的背景、実情を生徒の中に落とし込む必要がある。そうすることで、生徒がビデオレターで伝える内容、英語表現が変わってくる。

◎コミュニケーションをする際の姿勢を教師が見せることの大切さ

生徒が発表をする際には、教師がそれをよく聞き、受け止めることで、コミュニケーションする姿勢を見せることが大切である。そして、それに対してめあての目的や場面、状況に合うように生徒に質問を返すことで内容を深めることができる。

◎英語版資料や副読本 Discover Kochi の活用

生徒に与える清水についての資料を英語版にすることや、副読本 Discover Kochi を活用することで生徒の発信語彙が増え、生徒の英語表現が深まる。

◎中学校では、「事実」を伝えられるように指導を

小学校において「話すこと[発表]」で指導するのは、「考え、気持ち」だけだが、中学校では、多くの語彙や文法事項を学習するため、「考え、気持ち」だけではなく、「事実」まで伝えることができるようになる。小中の学びのつながりを意識した指導を行うとよい。

参考：学習指導要領の領域別目標「話すこと[発表]」における小学校外国語科と中学校外国語科の目標の比較

【小】話すこと[発表] ウ

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

【中】話すこと[発表] イ

日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

小学校からの系統を意識した指導を行いましょう！

参加者の学び・気付き

- ・入之内調査官がおっしゃっていた、「生徒の発言を聞いてあげて欲しい」という言葉から、進めたい方向に無理に持っていくのではなく、生徒が言っていた言葉を上手につなぎ、使える表現を増やしてあげることが大事だと再認識しました。
- ・言語活動をする上で、より具体的な目的や場面、状況の設定が必然性のあるものであると共に、活動形態(ペア・グループ)にも必然性をもたすことが必要だと感じました。なぜその形態が効果的なのかということまで考えなければならぬと思いました。
- ・単元構想が綿密に練られていて、取捨選択ができて印象を受けました。ついあれもこれも教えたい欲が出てきますが、そこを我慢することも必要だと思いました。学習内容のバランスや時数を考え、授業を創り続けていくよう努力します。